

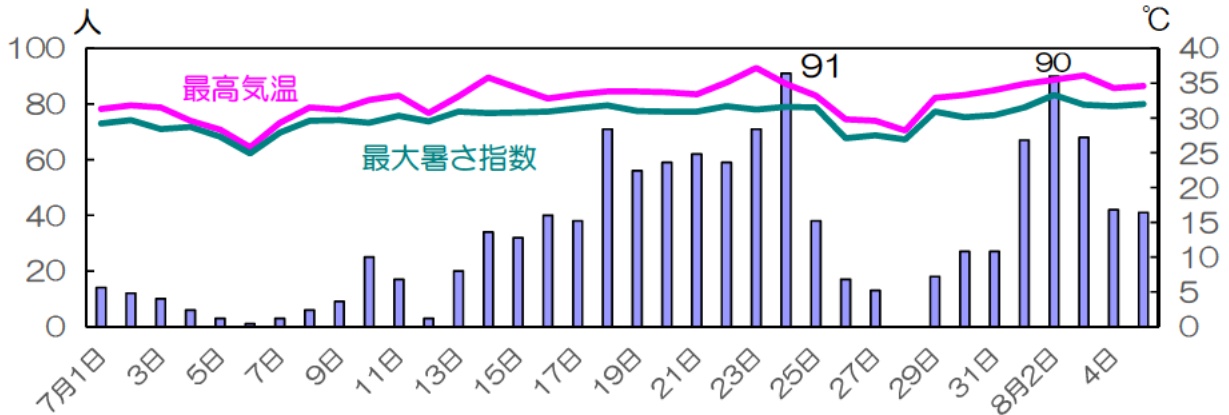
熱中症情報

<搬送数>

平成30年5月1日～8月5日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,297人（5月23人、6月84人、7月882人、8月308人）でした。7月中旬以降、各地で観測史上最高を塗り替える記録的な高温となり、7月の搬送数が急増しました。

7月18日以降は、特に多くなっており、連日50人以上搬送され、24日は91人でした。26日以降は、最高気温も30℃以下で、減少しましたが、8月に入り、増加しています。

暑さで寝苦しい夜は、就寝中の熱中症の発症を防ぐためにも、エアコンは朝までつけたままにしましょう。しばらくは、命の危険がある暑さが続く見込みです。こまめな水分・塩分の補給、室温は28℃を超えないように冷房を使用し、十分な休養をとる等、より一層の熱中症対策を心がけましょう。



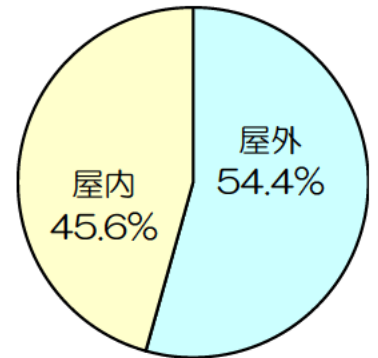
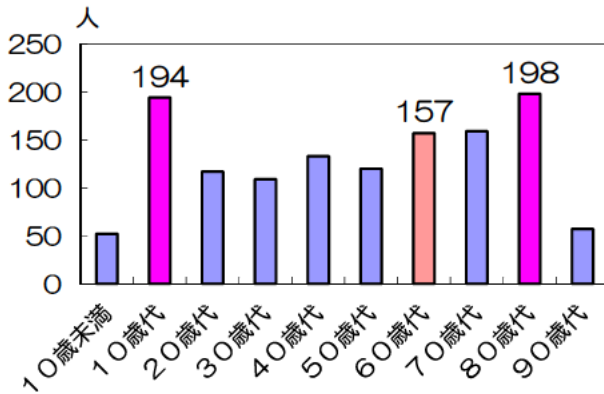
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「[環境省熱中症予防情報サイト](#)（暑さ指数(WBGT)とは?）」をご覧ください。

<年齢別>

年齢別では、80歳代が一番多く15.3%、次に10歳代で15.0%でした。

<発生場所>

屋外54.4%、屋内45.6%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症59.4%、中等症36.7%、重症3.0%、重篤0.8%、死亡0.1%でした。重症以上は51人で、65歳以上が68.6%で、そのうちの60.0%が屋内で発生していました。高齢になると中等症以上が増加し、重症化の傾向が伺えます。

